

第4回多摩区区民会議

日時 平成25年5月28日(火)午後6時

場所 多摩区役所 11階会議室

出席者：委員・・・安陪修司、荒井精一、石橋吉章、岩崎宏政、大津努、国保久光、小塚千津子、辻野勝行、戸高仁子、新田涉世、配島裕美、原田弘、細埜隆己、本多正典、松本英嗣、吉田輝久

：参 与・・・吉沢参与

：区役所・・・池田区長、土谷副区長、区民サービス部：高橋部長、保健福祉センター：石戸副所長、こども支援室：池田室長、道路公園センター：浅井所長、危機管理担当：森田課長補佐、総務課：布川課長、企画課：門間課長、井川担当係長、飯塚担当係長、奈良職員、澤野職員、上野職員、生涯学習支援課：夏井課長

傍聴者：3名

第4回 多摩区区民会議

日 時 平成25年5月28日（火）午後6時

場 所 多摩区役所 11階会議室

午後6時2分開会

1 開会挨拶

司会 本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、これから第4回の区民会議を始めたいと思います。

これ以降、進行は委員長のほうでよろしくをお願いします。

大津委員長 お疲れさまでございます。5月というのは実は私の生まれ月でございます。緑が非常に爽やかで、心もすがすがしい、このいいときに第4回区民会議ということ。きょうはいろいろな審議事項がございます。よろしく願いいたします。ただいまから始めます。

では最初に、事務局から資料の確認等々をお願いできますでしょうか。

事務局 それでは事務局から、まず会議の公開について説明させていただきます。この区民会議は本市の審議会等の会議の公開制度が適用される会議に該当しています。したがって、本日傍聴及びマスコミの取材を許可しておりますので御了承ください。

なお、本日の傍聴者の方々へのお願いでございますが、受け付けの際にお渡ししました注意事項をお守りくださいますようお願いいたします。また、会議につきましては、会議録を作成し公開することとしておりますので、会議終了時まで録音させていただきますので御了承ください。

なお、区役所の記録及び市政だよりや区ホームページなどへの広報用として会議の様子を写真撮影させていただくことがありますので、御了承くださいますようお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。まず次第がありまして、次の1ページ、区民会議委員名簿、次にA3判の用紙ですが、2ページ、席次表、3ページ、資料3、コミュニティ部会の検討シート、4ページと5ページが資料4、自然災害部会の検討シートとなっています。6ページが資料5、区民会議スケジュールとなっています。

最後に、7ページとしまして多摩市民館デー「多摩区子ども区民会議」についての資料があります。

本日の資料は以上となっています。

大津委員長 ありがとうございます。各委員におかれましては、資料の欠落はございますか。大丈夫でしょうか。

2 議 事

(1) 部会での審議状況と意見交換

- ・コミュニティ部会
- ・自然災害部会

大津委員長 それでは、早速議事に入りたいと思います。次第に沿って進行させていただきます。次第では2 議事となっております。

(1) 部会での審議状況と意見交換、最初にコミュニティ部会、辻野部会長から状況の御報告をお願いいたします。

辻野委員 大津委員長から指示がありましたので、早速コミュニティ部会での検討状況について御報告させていただきます。

前回の2月12日の区民会議において、コミュニティ部会「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」という形での現状の把握と課題について皆さんに御報告しました。資料3を開けていただいて、現状と課題について皆さんに御報告しまして、その後、コミュニティ部会では、資料5、開催スケジュールをご覧になっていただいたらわかりますように、3月11日と5月15日の2回にわたって検討を重ねて、資料3の真ん中、解決の方向・解決策、課題解決に向けた方向性とその解決策に向けてコミュニティメンバー11名に石橋副委員長に御参加いただきまして検討を重ねてきました。その結果、テーマの「地域に参加してもらおうしかけづくり」の解決の方向・解決策は「地域に出てくるしかけづくりに取り組む」、それから「コミュニケーション能力をはぐくむ」の解決の方向・解決策については「コミュニケーション能力をはぐくむ」、この2点について具体的に検討していくという形に落ちつきました。この点を目指して、具体的な取り組みを重ねていった。内容についてのポイントの概要を報告させていただきます。

まず、真ん中の「地域に出てくるしかけづくりに取り組む」という点については、ここに書いていますように、「区民それぞれの関心に応じて地域や住民と触れ合える仕掛けを考案し、多くの区民が地域に出てくる機会を増やすことをめざす」をコンセプトにして、(1)、(2)、(3)の3つの切り口からアプローチをしていくという形になりました。

まず(1)イベントカレンダーの作成に関しては、多摩区内の区民の触れ合える場とか情報を周知徹底することによって絆づくりの仕掛けができるというのが一番の原点ではないかということで、イベントカレンダーの作成を第1の切り口にいたしました。そして、イベントカレンダーの具体的な取組については、第1ステップとしては、地域教育会議が非常に情報を持っているということですので、中学校区ごとの地域教育会議が押さえているものとまち協のデータを含む役所が押さえているものの2つを情報源として情報収集を続けていく。その第1段階としては、まずそこをベースに集め

ること、第2段階は、その上で掲示するもの、掲示しないものの選択をしていかざるを得ないんじゃないか。そして第3段階として、その情報をもとに作成したイベントカレンダーをどのような形で区民に周知徹底していくかという3つのステップを踏まざるを得ないんじゃないかという形で今検討を進めています。さらに、いつごろまでにカレンダーづくりの工程表を考えたらいいのかは、6月28日にコミュニティ部会を開催して、そこをめどに年内の作成に持ち込めるように進める必要がある。その上で、どういう最終のものにするか、さらに深化を考えようという形で、イベントカレンダーの作成については、具体的な取組で書いている内容で考えています。

さらに、(2)多様な趣味にふれあえるしかけの検討は、コミュニティの問題について、仕掛けとして非常に難しい部分なんです。今のイベントカレンダーも、各地域で単発でやっているイベントで、例えば各自治会なり、あるいは各区の趣味とかスポーツで共通するものについてはコラボするような、点から線、線から面という形で、その地域の絆の幅を広げて、絆づくりを進めていくということも1つ。それから、ここに書いてある市民館の学びのフェア等に参加して、特に退職後のシニアがなかなか地域参加しないというような声もあるので、そういう人たちを将棋とか碁とか、多摩市民館でやっているそういう仕掛けによって、これから増えてくる退職後のシニア層も取り込んで、活動の中心になってもらいながら絆づくりの原動力にしていったらいいんじゃないかというような形で市民館との提携を考えています。

それから、(3)農業の切口から地域の絆が生まれるしかけの検討では、多摩区は緑地があり、川があり、都心のベッドタウンとしての恵まれた立地とか自然条件を生かして、農業、食育、健康をテーマにした仕掛けを検討していったら何かいい手だてが出てくるんじゃないか。特に、JA、白井さんから話が合ったし、また、石橋副委員長からもアドバイスがあったんですが、農業、食育、健康を単発じゃなくて三位一体というような包含した形でJA等に提言し、また、白井さんからアイデアを出してもらいながらやっていったら何かいい提言ができるんじゃないかと期待が膨らんでいるところでございます。

第1点については以上です。

第2点、「コミュニケーション能力をはぐくむ」については、「知り合い同士で気軽にあいさつを交わせるようなコミュニケーション能力をはぐくむ仕掛けを検討、推進する」、これは、もともと知り合いじゃない人たちが顔見知りになるための気軽な挨拶、コミュニケーション能力を育む仕掛けを検討するというところで、語彙に不足がありました。ちょっと訂正させてください。そういう形の仕掛けを検討するというところで、具体的には、「体操は健康・長寿に役立ち、あいさつできる関係につながるのでみんなで集まって行う体操の普及を検討する」「地域内であいさつできる関係が生まれる集まりの開催手法を検討する」となっていますが、この段取りとしては、あい

さつ運動の展開、ラジオ体操、地域での行事。それと資料で、福岡のある都市では、小さなコミュニティ、あるいは御近所の底力、こういうものの実現の一步は挨拶運動、シンプルな挨拶からということが書かれています。要するに、町内会、地域の住民が、おはよう、こんにちは、こんばんは、行ってらっしゃい、お帰りなさい、こういうシンプルな挨拶がコミュニティづくり、顔見知りづくり、人間関係づくりの原点だということで、あいさつ日本一宣言都市という標語を掲げて挨拶運動を繰り返し、絆づくりをやっているという形で、それが非常にうまく機能しているというような資料も事務局のほうから出されていまして、そういう意味でのあいさつ運動も推進していく具体的な取り組みを考えようという形で検討が進められてきました。ただ、この実施主体等についてはちょっと詰めの時間的なものも足りなくて、ここらもひっくるめたもの、今の実施主体、例えばJAさんとの絡み、市民館等の対応、依頼、委員長にお願いしている部分もあるんですが、相手のあることなので、相手がイエスかノーか、あるいはそのアイデアをどういうふうにアレンジしていくかで、今後の進捗状況では若干変更とか修正とか、その可能性を探らざるを得ないという面では、今後、若干紆余曲折する部分はあると思いますが、大筋のところでは今の形で具体的な取り組みを進めていきたいと思っております。そういう形でコミュニティ部会全員で進めていく方向になっていますので、御報告します。

私のほうからは以上ですけれども、松本副部会長から補足すること、あるいは委員の皆さんで補足があればよろしくお願ひしたいと思ひます。

松本委員 こういう方向で検討していくということと、できれば具体的に物を進めていきたいと思ひますけれども、今、部会長から御報告いただきましたように、相手のある話でもありますし、こっちで勝手に考えた部分もありますので、この辺はその状況をヒアリング等々しまして、現実的なものにするにはどうしたらいいのかというようなところをこれから詰めていきたいと思ひます。

イベントカレンダーについても、具体的に、今年の後半ぐらいのものを集められるだけ集めてみて、本当にそれが意味があるのか、どれが意味があるのか。あるいは、ある団体限定でやっている、例えば町会とか子ども会など限定でやっている部分もありますので、それがこういうカレンダーに載せていいものかどうかを今年の後半に検討していきたいと思ひます。ただ、そういういろんな情報があちこちから、実施主体のほうからいっぱいあるんですけれども、それが一覧になってあるというのは余りない。昔、まち協さんのほうで取り組んだということなんですけれども、改めて今回これをやってみたらどうかと思ひます。

それから、ラジオ体操についても、今、子ども会でちょっとやっているんですけれども、それと合体させるようなことが可能なかどうか、これから検討を進めていきたいと思ひます。

大津委員長 報告ありがとうございました。

それでは、ただいまのコミュニティ部会の部会長並びに副部長からの報告を受けてまして、何か御質問とか御意見はございましょうか。ある方は、忌憚のないところをお願いしたいと思います。

それでは、出席の委員お一方ずつ率直な感想なり、御意見なり、提言なりを賜りたいと思います。名簿順で早速お願いしたいと思います。

安陪委員 ただいまの説明をお聞きまして、まことにそのとおりで、簡単なようで一番難しい問題だと思います。本当にこの地域は新しい方がどんどん入ってきて、人口がますますふえているような現状の中で、古くからお住まいの方と新しい方との交流がやっぱりスムーズにいかないということは、何事においても物事がうまく進まず、一番大切な情報交換ができなくなる根幹かと思われまますので、大変御苦勞ですが、ぜひ仕組みづくりを闊達にさせていただければと思います。

荒井委員 イベントカレンダーは、いろいろなものがどこでやっているとか、そういう部分が情報としてあるということで、そういうものがあれば、いろんな形で地域に参加していくということがやりやすくなるんじゃないかと思ひまして、この辺も非常にすばらしいなと思うんですけれども、これが手軽にいろんな形で新しい情報が見られるという部分があると、またより一層いいものになっていくかと思ひます。

岩崎委員 所用でちょっと遅刻してしまっただけなんですけれども、今、報告を見させていただきまして、イベントカレンダーというのは今後コミュニケーションを進めていく上では有用かなと思うんですが、カレンダーをつくっていただく際に、大学生がこれを見たときの視点なんですけれども、できるだけ出てみようとか出たいなと思うようなもの、ただ何日に何がありますというだけではなくて、どういう趣旨で、どういう内容なのかというようなところもあわせて情報として付加していただけるといいのかなと思ひました。

それと、コミュニケーション能力は、大学のほうでもまさにここに書かれているような、大学も1つのコミュニティですので、学生同士、同じ年齢ぐらいですとコミュニケーションはとれるんですけども、少し年齢のいく、例えば我々職員とか教員とは接した経験がないということで、なかなかコミュニケーションがうまくとれないという学生さんも現実にいるので、実際に地域の方々とのこういうかかわりを通じて、学生たちにとっても人間として成長していく1つのきっかけとしていただけると非常にありがたいなと感じました。

国保委員 私、前回、コミュニティ部会をお休みしたんですけれども、その前に、(3)の農業の切り口の話は私が言い出したんですけれども、川崎の高齢者を中心にした一番の望みは何ですかというあらゆるアンケートのトップがやっぱり健康なんです。全て健康。そういうことから考えまして、たまたまJA関係の人がいらっしゃるという

ことで、大変いいのは、(3)で農業、食育、健康というテーマをつくっていただいたんです。健康を増進するのに一番いいのは、健診をしたり人間ドックをしたりすることじゃなくて、せっかく農業があるならば、これを利用して、食育とありますけれども、生の食品、今畑からとった生食を食べることが健康あるいは病気の治療に最も効果的だと私は考えています。子どもが出す薬などで健康はそう守れるものではないので、農業、食育、健康をテーマにすると長生きできるということがありますので、私はこれに考えをいろいろまとめてみたいというふうに今思っています。

小塚委員 イベントカレンダーの作成なんですけれども、日程とかを今入れるのは大変だと思いますが、例えば日めくりカレンダーみたいな形にして、町内会の写真とか祭事ごとの写真を出して、ちょっと紹介とかを入れたらおもしろいものができるんじゃないかなと思います。そうすると、365カ所の写真が撮れてお楽しみもできるんじゃないかなというのは、これは提案です。

新田委員 私も遅刻してきまして、ちょっと最初のほうを聞いていなかったんですけれども、川崎市というのは本当に細長くて、南の工業地帯、真ん中は商業地帯、我々が住む多摩、麻生というのは人の出入りが多い地域だというふうに聞いております。そういう特徴の中で、コミュニティ、コミュニケーションをとっていくというのは本当に難しい地域でもあると思うんですが、1つは、コミュニケーション、コミュニティをつくるための、かかわり合いをつくるための仕掛けづくりということで、仕掛けをつくるということに知恵をお出しになっているところにすごく賛同しております。何をしようとしても、仕掛けがあることで実際に機能していくかと思えます。実際にどういう仕掛けがいいんじゃないでしょうかという提案は今特にはないんですけれども、この仕掛けにこだわっているところを1つ賛同しております。

それから、先ほど国保委員から健康を切り口にとということで、これはどの世代でも、老若男女問わず健康の意識は非常に高いと思いますので、趣味とはまた違うと思うんですけれども、こういう誰もが興味を持つテーマを切り口にしてきっかけをつくっていくというのは効果が上がるんじゃないかなと考えます。

配島委員 イベントカレンダーの作成については、皆さん、多分いろんな思いがあると思うんですけれども、各地区でこんなにたくさんいろんなことをしている楽しい区に自分は住んでいたんだわと気づけるようなカレンダーができるといいなと思っています。

あと、学びのフェアとか食育も大切ですが、個人的には、個人の参加というイベントもいいと思うんですけれども、グループで参加してもらって、そのグループ同士が協力し合って何かをするというような、例えば防災のシミュレーションにグループごとに参加してもらって、みんなで協力し合って何かしようよというようなイベントとか、食育に関しても、グループというのも問題はあるかと思うんですけれど

も、来てもらって、いろんなどころを見学に行ったり、料理をつくってもらったりとか、そういう勉強も含めたことができるとよりコミュニケーションが広がるのかなというふうに考えています。

原田委員 今お聞きしていたんですけれども、農業の切り口から地域の絆というようなことで、これは例えば市民農園みたいなのをお使いになって、それで皆さんにコミュニティじゃないけれども、つくっていただいて、そこで生産できたものを皆さんで食べるとか、そういう感じで皆さんは思っているのでしょうか。

辻野委員 そうですね。

原田委員 それだったら、うちのできが悪いとか、おたくのやつはいいですねとかいって、地域のことでですから結構絆というのはできると思うんです。食べることも、皆さん健康が一番関心を持っていると思いますので、そういう食べ物に対していろいろと気を使って、うちのほうはこういう苗を植えたよとか、そういうのが言葉になって出てくると、結構楽しいコミュニティができるんじゃないかと思っています。

細埜委員 私は趣味を通じて知り合うというのが一気に距離が近くなって親しくなると思うので、私もいろいろな趣味がありましたけれども、今は金魚とかメダカを増やして楽しんでいます。多分皆さんも、スペースがない方でも生き物がちょっといると心が安らぐと思うので、そういう趣味の講座みたいなのを幾つか実施すると、そのグループごとの輪が広がっていくと思います。

本多委員 先ほど来、話がありましたイベントカレンダーについて、まち協で7年前に調べました内容については、先日、企画課の担当の方にお渡しいたしましたので、御参考にしていただければと思います。

それから、「コミュニケーション能力をはぐくむ」なのですが、私は、小さな自治会なんですけれども、自治会長をやっております、毎月第1日曜日を町内会の掃除の日と決めていまして、ほとんどの御家庭からお父さんかお母さんかが出て町内を掃除しているんです。こういうことをすることによって、ここにも体操とかいろんなどころで挨拶というのがありますが、掃除をすることによって御近所におはようございますと挨拶をしたり、あるいは子どもさんが一緒に出てきたりしていますので、子どもさんたちとの会話もあります。やはり、誰かがやるというよりも、地域でそういう取り組みをされたほうが、地域で顔見知りになることによってコミュニケーションも当然起こってきますし、顔見知りになったことはその地域の安全安心につながっていくだろうと思いますので、なるべく地域で取り組まれることを僕はお勧めしたいと思います。

吉田委員 私は、イベントカレンダーの作成がちょっといいのかなというふうに思っています。そのイベントカレンダーには、今月はどこの地域がどのような行事をするとか、そういうことを書かれていると、今度ここに行ってみたいなとか、そういうこと

で、趣味も一緒に入っているところ、農業でも、長沢ではタケノコで街コンというんですか、ああいうようなことや、いろんなどころで行事があるということで、皆さんが行ってみたい、趣味のところに行ってみたいというようなカレンダーの作成がよろしいかなと思っております。

戸高副委員長 皆さん具体的にいろいろ意見を述べていただいて、私も身近で、ほかの地域でもやっているイベントカレンダーをいただいたら、もっと出かけていける場所もできるだろうし、いろんなどころを知ることでもできると思いますし、自分の地域でもこういうお祭りがあつたらいいかなとか、こういうことをやったら皆さんと出会えるのかなというヒントにもなるんじゃないかと思いました。

また、子育てをしてきた母親の立場から思ったことなんですけれども、先ほどおっしゃっていました農業と食育と健康、本当に食べることはとても大事なことだと思っています。今も、自分にとってもそうなんですけれども、子どもたちにとっても、そういう環境があるのはこれからの多摩区にとってはとてもいいことなんじゃないかなと思います。たまたまですけれども、私は生ごみの堆肥化がおもしろいと思って、身近でやっていらっしゃる農家の方に畑も借りて、自分たちの堆肥を入れて、それをまたお野菜づくりにつなげていらっしゃるグループに入れていただいているんですが、そういうことで、御近所の先輩の方たちとか若いお母さんたちともつながることができました。交流会を自分たちで企画してお茶会をしたりすると、いろんなお料理の仕方も学べますし、交流が出てくるんです。身近でそういうきっかけづくりがたくさん出てくると、それがおもしろいということできつなげていきますし、そういう情報が入ってくると、自分のところでもやってみたいという方が広がっていくんじゃないかなと思って、とても期待しています。

大津委員長 ありがとうございます。大体、各委員からの御意見は出たと思います。今の各委員の所見で、辻野部会長、もしくは松本副部会長がきょうここで感じたことがありましたら、反応というか感想なりをお聞かせいただければと思います。

辻野委員 今、皆さんからいろいろアドバイスをいただきまして、やっぱりやるからには、あっ、楽しそうだな、あっ、私の健康に役立ちそうだな、あっ、出ていってみたいな、何かわくわくするな、そういう形の打ち出しのできるような、そして、これは外に出ていかないと、参加しないと損だな、人生何か忘れ物をしたような、落とし物をしたような形になるな、そういう思いをかき立てるようなものが提言の形でまとめられたらな、そして皆さんからいただいた1つ1つのお言葉、心をそういう提言の中で実現できるような、あるいはビジュアルな形にできるようなコミュニティ部会をみんなで力を合わせてやっていきたいと思っていますので、折に触れメールでも電話でも、また、お会いしたときに遠慮なく御意見を賜ればと思っています。どうかよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

松本委員 皆様の御意見、我々が取り組んでいく方向について、これで進めたらどうかと言っていたというふうに感じました。我々もいろいろ話をしていてそうなんですけれども、言うことは易しいんですけれども、具体的にやろうとするときに、いろんな障害とか、相手があつての話だと相手はノーサンキューというようなこともあったり、現実的には非常に難しいので、その辺のまさに仕掛けというか工夫を考えて、これからさらに具体的に進められたらいいんじゃないかなと思っております。

大津委員長 ありがとうございます。

それではコミュニティ部会についての意見交換はこれで終わりました、次に、自然災害部会の審議状況について荒井部会長から報告をお願いいたします。

荒井委員 5月13日に第4回の自然災害部会を行いまして、検討を進めましたので御報告させていただきます。町内会とか自治会とか防災の組織において活動にばらつきがありますし、また、区民の方でも防災意識の非常に低い方等に対して具体的にどういふふうに取り組んでいったらいいのかということで検討させていただきました。

資料4の4ページ、5ページにあります「情報の周知」と「生徒・学生との連携」、「避難所と備蓄倉庫」ということで検討をいたしました。

「情報の周知」につきましては、川崎市でさきに全戸配布された「備える。かわさき」がございすけれども、具体的な取組の①として、これを多摩区版としてつくってみたらどうかということです。発災時、緊急時に特にこういうことを注意しておいたほうがいいのか、それからまた、ぺらぺらの紙でつくったものというのは、よく家庭のポストに放り込まれますいろんなカタログ類なんかと同じ部分がありますので、そうではなくて、しっかりした紙で冷蔵庫に添付できるような形がいいのではないかとということで、多摩区版の「備える。かわさき」をつくってみたらどうかという提案がございました。

それから、②として、身近な単位ということで、学校区単位程度に防災マップを大きくするといいますか、区とか大きな単位での防災マップですと、実際に自分の地域の内容がよくわかりませんので、より身近な学校区単位程度の地域に限ってそれぞれの防災マップをつくってはどうかということがありました。そういう単位にすれば、町内会であるとか自治会の備蓄品が、ここにこういうのがあるとか、また、こういうところにコンビニエンスストアがあるとか、非常に身近な形でのいざというときに役に立つ防災マップになるんじゃないかということです。

③としまして、特に情報の周知として町内会でそれぞれ行っていただいています回覧板がありますので、この回覧板にその地域の防災マップを張ってはどうかということです。防災マップを回覧板に張れば、回覧板が回ってくるごとに目にすることができますし、なかなか情報を見る機会がない方も、あるときはこういうものが張ってあったんだと意識してもらえらるような形のものになるんじゃないかと。もう1つは、そ

の回覧板の中に地区別の情報とか、非常に細かい形での情報が差し込めるフォルダ方式にして、毎回新しい情報に更新できていけるような、新しい情報が出れば回覧板にその情報が入って、皆さんのもとに回覧されるような形のものができるんじゃないかと。これによって、より皆さんの防災意識を高めていくことができるんじゃないかというふうに考えました。

それから「生徒・学生との連携」で、多摩区内で学んでいらっしゃる3つの大学の学生さんと地域との連携が非常に重要なものではないかということで、特に具体的な点としまして、①で区内在住大学生と地域の連携の仕組みづくりに取り組んでみたらどうだろうか。②として、大学との連携に関する専門家の意見を聞くセミナーを開催してはどうだろうか。③として、これは大学のほうでもいろいろと取り組まれている部分ではあるんですけども、大学生対象の防災セミナーの開催ですとか学生向けの防災パンフレットの作成・配付、特にそれがしっかり地域との結びつきができていくといいなというところです。それからまた、④で、地元のほうでも高齢化等が当然あって、若い方が地域の大学に学んでいるので、大学の学生さん、地域にいらっしゃる方も含めて、ぜひこういうふうにしていただけたらいいんじゃないかという意見について把握していったらどうだろうかということです。⑤に、大学生の災害時の地域支援意向の把握、要するにボランティアをしたいという学生さんの意向を大学の方でしっかりと把握していただいて、また、地域の連携として発災時に取り組んでいただけるようなことを考えてみてはどうだろうか。最後、⑥に中学生、高校生、大学生に避難所運営ゲーム、HUGを体験していただいて、これによって防災意識をしっかりと取り組んでいただくとともに、地域の避難所等の運営のあり方、また、そこに対する意識啓蒙をしていってはどうかということをございました。

5ページの「避難所と備蓄倉庫」の問題ですけれども、さきに出ました意見としては、①として避難所単位での避難訓練の開催、②として「あなたの避難所は〇〇学校です」というシールを作成して、この辺がどの程度意識されているか、各戸ごとにあなたの避難所はここですということがはっきりわかるように配付してはどうか、③として、より身近な単位での「いざという時に助け合える体制」づくりの検討については、第4回目の自然災害部会では時間がなくなりまして、一応ここまでということで検討を終えました。

ざっとでございますけれども、結果として、こういうことで進めていければと検討いたしましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

大津委員長 ありがとうございます。細埜副部会長、何か補足がございましたら。

細埜委員 特にございません。

大津委員長 わかりました。

それでは、コミュニティ部会のとときと同様に各委員の感想なり、所見なり。先ほど

は安陪さんからいきましたので、今度は吉田さんのほうからお願いいたします。

吉田委員 私の町会は、町会の中に学校が5つあるんです。5つありますので、私のところは災害のときにどこに逃げたらいいのか、一旦避難したらいいのかというようなことがはっきりわからない。小学校が下にあって中学校が上にある、中学校が2つあって小学校が3つあるとか、そういうところをスクールゾーン単位ぐらいに置きまして、あなたの避難する場所はここの学校ですよというような形で、具体的な取組の中の②で身近な単位ということで、スクールゾーン単位で防災マップの作成をしたらいいのかなと考えております。

それから、似たようなことなんですが、具体的な取組の次の5ページ、あなたの避難場所は何か小学校ですとか、何か中学校ですということを書いたものを、よく目に見えるところ、自分の家族でわかるようなところにはっきりとしたほうがよろしいかなと、そういうふうにPRしたらいいかなと考えております。

松本委員 「情報の周知」のところ、各区民の皆さんにさらにいろいろ情報を周知すると。町会でも随分やっているんですけども、なかなか町会の中に徹底していない部分、回覧板も回るだけで見えていないというような部分もありますので、ぜひ回覧板に防災マップの張りつけとか、余り大きいものは張れないと思うんですが、冷蔵庫に張れるようなものをつくっていただいたら結構便利じゃないかと思うんです。

それから「生徒・学生との連携」です。岩崎委員がいらっしゃって、全く一方的なお願いみたいですけども、私も町会をやっていますが、町会で若いお父さんたちはなかなかお手伝いに回ってもらうのが難しいというような中で、大学生でしたら1人で住んでいらっしゃることが多いし、あるいは近く、隣に仲間がいるというようなこともある。もしそういう方々に手伝ってもらえると、例えば弱者の方、障害者とかお年寄りなんかを助けてもらうときに結構力仕事もあるものですから、我々としては非常に心強いとか力強いので、ぜひこの検討も進めていただければなと思っています。

5ページのほうについては、今の吉田委員のように、私のところも2つ学校があるものですから、道路とかに看板は立っていて、あなたの地域の避難場所はどこどこですよというのがあるんですけども、見えていない方もいるので、シールなんかはいいと思うんです。

避難所単位での避難訓練というのは、今、避難所単位で私のほうも考えていますし、実際にやっているところもあるので、これは余りあれしなくてもやるんじゃないかなと。区役所の危機管理担当のほうでもかなり力を入れていますので。

より身近な単位でのいざというときの助け合い、これがなかなか難しく、自主防災組織とか避難所運営会議の組織とかをつくるんですけども、名前だけというようなところもあったり、なかなか難しいところがあるので、この辺ももし何かいいお考

え、アイデア等がありましたら我々にぜひ提供していただいて、こうやったらどうだというようなことを言っていただけましたら大変ありがたいなと思っております。

本多委員 私も「生徒・学生との連携」の中の1つなのですが、私の町会のすぐそばに専修大学さんがあります。私どもの町会の昼間の平均年齢を計算しますと、約65歳なんです。昼間に災害、地震等が起こりますと、女性か年寄りか乳幼児かというような感じなんです。先日も専修大学さんのほうに、そういうときには何とか支援をお願いいたしますとお願いをしてきたんですけども、これは4ページのポチの3個がどのように検討が進んでいくのか非常に期待したいところで、3大学のほうで大いに協力していただけるように、何とかして御協力いただければと思います。

それからもう1つは、一番最初に多摩区版の「備える。かわさき」の作成というのがあるんですけども、こういった一般的なものもあっていいんですけども、5ページにも避難所運営会議があると書いてありますが、私も東生田小学校避難所運営会議の委員の一人なんですけれども、やはり地域に特化したというか状況に合わせた備える資料があつていいと思うんです。いつもそうなんですけれども、一般的な資料をいただきましても、それはそれで役立ちますんですけども、いざ自分たちの土地だとか地域の状況を見たときに、それが本当に役立つのかといたら、役立つところもあるし、全然役立たない箇所もあつたりしますので、できる限りその地域に根差し備えるにはどうしたらいいかというようなことを検討していただければと思う。それは本来は避難所運営会議の仕事かもしれないんですけども、そういったことを感じました。

細埜委員 私は登戸に古くから住んでいるもので、古い人同士はほとんどあうんの呼吸で、災害のときでもみんな対応できると思うんですけども、やっぱり新しい方が大分ふえておりますので、エリアを絞った情報のマップ等を配付したほうが関心が高まるんじゃないかなと思います。

原田委員 自然災害のほうでございますけれども、身近なマップというようなことで、さっき言っていましたけれども、冷蔵庫の脇につけるとか回覧板の表紙に張るということもこの間検討しましたけれども、看板をうちのほうでも250ぐらい必要なんです。そんなことであると相当お金がかかるんじゃないかというような気もするんですけども、それができれば最高にいいと思っています。

それと、学校のスクールゾーンでございまして、うちのほうは学校が3つに分かれていて、うちの町会には学校がないんです。生田小学校、南生田小学校、片方は北に戻りまして細山で、麻生区になるんですけども西生田小学校がございまして、それが道路を挟んで、昔はスクールゾーンを分けていましたけれども、今は学区が意外となくなって、そっちへ行きたいという方がいられると西生田小学校に行ったり、南生田小学校へ行けば南生田小学校へ行くというような形で、生田小学校へ行く

とすると読売ランド前駅から電車で通学なんですよ。そんなことで、スクールゾーンであるのには一々どこに行っているか子どもさんに聞かないとわからないようなところもございまして、マップをつくってという結構大変なところがあるんじゃないかと思っています。これはやらなければしょうがないと思っておりますけれども、そういうことですから皆様の協力をいただきたいと思います。

配島委員 私ごとなんですけれども、昨年、同じ多摩区の中で引っ越しをしたんです。これまでどこの学校、避難はどこだよと子どもなんかにも言っていたんですけれども、引っ越して、あれっ、ここどこだったかなとやっぱり思うし、大きくなって家を離れてしまった子どもに、今度どこの中学校が避難場所になったから、何かあって帰ってきたときはとりあえずそこにいるはずだよという話をしたときに、子どもがわからないんです。やっぱり地理感がすぐつかめていないし、家を出てしまっただけなんです。そこで、先日、家族であちこち散策をして、ここがどこの中学校で、ここを通ってくるんだねとかというようなことを話して散歩をしたんですけれども、やはり多摩区は通勤の方がいたりとか、結構人の流れというのが多いと思うんです。そういうときに、ここで出ているような避難場所はどこですよとか、小さなエリアでのマップとかは必ず必要になると思いますし、また、逆に1つの家庭の中でも、何かあったとき、私たちは、まず第1の避難所がここで、ここにいるよとかいうのも家族の中で話し合っておく必要があるのかなというのをちょっと感じたので、そういうのも書けるようなスペースというか、何かあったらいいんじゃないかなと思いました。

新田委員 自然災害部会に所属しております。と言いつつ、前回の5月13日の会議が初めての参加だったんですけれども、すごく充実した協議が行われているんだなという感想でした。

自然災害部会の大きな課題の1つは、やはり防災意識を高めるということかなと思っています。防災意識を高めるというのはどういうことかということ、防災について意識する機会を持つということと、それを継続するということの両方が必ず必要かと思うんですが、そうした場合に、前回の会議で出てきたアイデアで、例えば「備える。かわさき」の作成をして、それを紙で配付をしても、大体ごみ箱に行ってしまう。だけれども、例えば冷蔵庫に貼れるような形態にすれば、何かしら見る機会があるだろうということで、ずっと継続して、いつもいつも意識していないかもしれないんですけれども、見る機会がたくさん増えるのではないかと、すごくいいアイデアだなと思いました。

スクールゾーンでの防災マップというのでも、どうしても広い範囲での地図になってしまっていて、作成した人にちょっと失礼なんですけれども、何となく見てもよくわからない地図なんです。実際見たときに自分の問題として捉えられるようにするため

には、自分の地域がわかる地図に、ここが避難場所なんだよというふうな地図になっているべきだと思いますし、それを継続して、いつも自分の意識に持つための1つのアイデアとしては、例えば回覧板に張りつけておくということがコスト的にも非常にメリットがあると思いますし、継続してそれを意識して見る機会になるんじゃないかなということで、自分が参加した部会なんですけれども、とてもいいアイデアだと思います。

それから、「生徒・学生との連携」に関係するかもしれないんですが、区民会議の今回の活動にそぐわないかもしれないので書かれていなかったのかもしれないんですが、学生版の区民会議みたいなものを立ち上げるということを試みてもいいのではないかと提案をさせていただいたんです。若い柔軟な発想で、いろいろなアイデアがきっと出てくるだろうと思い、今回の区民会議では無理かもしれないんですが、学生版の区民会議というのも今後検討してもいいのかなというふうにちらっと思ったので、補足でつけ加えます。

辻野委員 いざというときに助け合える体制づくりということで、自然災害部会の皆さんは、人命にかかわるだけに責任重大な取り組みで、1つ1つが手が抜けない課題だと思いますが、それをこんなにきめ細かく丁寧に検討を進めている点、コミュニティ部会としても大変参考になり、ありがとうございます。

3・11の釜石の奇跡とか大川小学校の悲劇とか、小説とか本にもなったし、テレビ等でも放映されましたけれども、共助、要するに安全安心、防災減災という部分は、最終的にはこういうきっちりした手だての中で、近い助け合いという近助が最大の底力になるのかなと、この釜石の奇跡とか大川小学校の悲劇を拝見しながら思いました。そういう意味では、やっぱりこういう手続面、あるいは対応のきっちりした部分と顔の見える関係づくりの2つが一緒になって初めて、思っている安全安心が実現できるんじゃないかな。そういう意味では、最終的なところでは自然災害部会の皆さんとコミュニティ部会が1つの合体した提言という形に結びつけると一番いいのかなと今思っています。またよろしくをお願いします。

小塚委員 2月14日の区民会議交流会の意見交換の中で、ほかの区の方だったんですけれども、自然災害に関する調査審議の中で、小中学校で実際に災害に備えるということで、勉強会が全部中学校で回っているそうなんです。そういう形が自然災害部会でできたらいいなと思ったのと、また、先ほど言われた地域でという話だったので、多摩川沿いだと中野島ですし、逆に生田地区だと本当に山なんです。山の地域だと道がなくなってしまうと避難場所まで行けないというのは実際ありますので、そこら辺でやっぱり丁寧な物づくりができれば一番いいのかなというところで、今避難所運営会議があるので、その方と一緒にできたら、その地域地域でトップの方がすごく詳しいじゃないですか。そういう方が、こういうふうに道が、ルートができればいいよねとい

うところで地図づくりなんかを一緒にできたらいいんじゃないかなと思います。よろしくをお願いします。

国保委員 地震でも何でもそうですが、恐らく災害が起こればみんなすぐ避難をすることを考えると思いますから、そういう意味では避難所は非常に大事だと思うんです。一時的な避難所としては公園とか、ここに書いています空き地とか、農地も一時避難所としてはあって、あとは学校単位、先ほどからお話がありましたスクールゾーンです。私のところは長尾地区ですけれども、長尾地区のエリアに限定した避難所への道案内みたいなものをしっかり入れて、そういった一時避難所も含めて避難所を地域ごとのマップに、先ほどからお話ありました回覧板に載せて配って、それで冷蔵庫に張っていくというのはすばらしい意見だと思うんです。一時避難所、それから、いわゆるスクールゾーンの避難所というのはやっぱり地域地域で、しかもそこにたどり着く道順まで簡略にわかりやすくできたら一番ありがたいかなと思っています。

岩崎委員 私は3大学連携協議会という区分で委員として推薦を受けているというところで、前回、ちょうど3大学連携協議会があった際に、それまでの部会で話されていた内容ですとか、あとはそこで承った御要望等については他の2大学の担当者の方にも一応こういうことだと概要はお話をしたところ、やはり、こちらの4ページにあるように、私が最初に課題に挙げさせていただいた点は、異口同音にどこの大学でも同じであろうと。町会の方々からの要望も、私も委員としていろいろお話を伺っている限りではわかるんですけれども、実際に大学は多摩区に立地していて、学生も相当数、地元には住んでいるんですけれども、一方で大学としては、学生というのは、特に地方から学生さんを送り出している親御さんからすると、大学できちんと身元を保証する、きちんと人材教育を施しますという契約に基づいて授業料等の納付をしていただいている関係にございます。なので、3・11のときにもそうだったんですけれども、まずは大学ごとに在籍する大学生の安全の確保と避難とかが第一義で、うちの学生であれば、そこが確認された後に、じゃ、地元からこういう要望があればそれに応じましょうと。どうしても、そのプロセスを経ないと、いきなり災害がありました、じゃ、すぐにどこに誰々行ってくださいというような体制はとれないというのが現実かなと。

それと、自然災害部会でもお話をしたんですけれども、ちょうど3・11のときには、本学の場合は後期試験が終わりまして、実質、学生さんたちは春季休業で、大方の学生さんが、特に地方から来ている学生さんは帰省されていたりとか、あとはどの時期、時間帯にしても例えば朝なのか昼なのか夜なのか、いつ起こるかで構内に残っている学生の人数だとかも違ってきます。ですから、いろいろな時期、それと時間帯をシミュレートした形で、まずは第一義的に大学が学生に対してどういう対応をするのか、それを受けて地元との連携でどういうことができるのかを今後具体的に少しず

つ詰めていく中で、できること、できないことがおおよそ見えてくるのかなど。そこから辺は他の大学の方々からもそういう意見をいただきましたので、今後、こういう議論を経て、最終的には大学への要望は承る中で、大学としてできることを最大限具体化するためにはどういうふうに進めていったらいいのかを議論していただくことが一番大切なのかなというふうに感じました。

安陪委員 私たちのグループで回覧板という提案が出ておまして、私もこういう情報の徹底には回覧板を使うのが一番ベターかなと思っています。それで、その会議があった後、早速うちに帰って——今、うちのほうで使っている回覧板は、この回覧板なんです。これは恐らく各地区みんな同じじゃないかと思うんです。それで、見ますと、広告をとって、この回覧板をつくってやっています。中身は、そういう緊急避難とか家事の便利帳みたいなものもさすがに載っておまして、これに防災マップを張りつける。恐らくこれは業者の既成の板が普及しているんじゃないか。私たちもこれを使うか、独特の形を考えるか、使い勝手のよさを我々みんな考えて改良を加えるのか、そのような問題点は掘り下げていきますと多々出てくるんです。限られた時間でやるのと、なおかつ、いろいろな防災対策を種々検討する、最終の時間を見きわめて、作業に入る直前までは議論を聞かせて、手戻りがないような形で、実行に移すような形でやっていくのが、大変少ない時間でまとめるのは有効に使えるんじゃないかなと思って、きょうは回覧板をちょっと持ってきました。

戸高副委員長 身近な助け合い、家庭の中での確認、それから大きなところで3大学さんと各地域での住民の方との連携もこの部会の中で具体的に少しずつ進んでいるということがとても頼もしく思いました。家庭の中で家族と確認し合った状況でも、学生さんであれ、私たちであれ、被災してしまえばみんな被災者になってしまう。だけれども、お互いに助け合わなければいけないお隣同士なので、コミュニティ部会でも今取り組んでいますそういうお隣同士とのコミュニティの対策、それから部会でどういうふうにそれを確認し合うツールをつくっていくか、それが地域のコミュニティなのか、それとももっと大きな連携なのかが多摩区の中で具体的になっていくということがとても頼もしく感じました。これからもよろしく願いいたします。

天津委員長 私も今戸高副委員長と同じような気持ちですが、皆さん御存じだと思いますけれども、神奈川県は厚木に防災センターがございます。つい先日、33名ほど引き連れて行ってきました。いろんな体験ができます。幸い、我々の住んでいる多摩区では、私の年がばれてしまいますけれども、一声70年の中で、台風は別ですけれども、大きな災害は、多摩川の氾濫は幸か不幸か多摩区側じゃなくて東京都側でありましたし、地震を含め余り体験していません。防災センターに我々が行ったときには、シミュレーションで3つの体験をさせてもらいました。阪神淡路の震災の震度7の様子、それから関東大震災の直下型と横揺れ、やっぱりそれぞれ違います。いろんな指導も含め

て、初期行動をすべきところがあるんですけども、実際、震度7といたらほとんど動けませんでした。例えばガスコンロを消すとか、そういうこともできませんでした。ドアもあけに行きたくてもあけられない。もう1つは風水害。風速30メートルがあるんですけども、それは、手すりにつかまっていればいいんですけども、つかまらずに立っていますと、足は全然動きませんというようなものもあります。体験するということが時には要るのかなと。御参考までに申し添えました。余計なことでした。

以上で自然災害部会についてを終わりますが、荒井部会長、何か所感とかありましたらお願いします。

荒井委員 大変にありがとうございました。いろいろなお話の中で、やはり身近な単位とか、自分にとって身近な単位で情報が提供されるということが非常に重要で、それによって皆さんの防災意識が高くなるんじゃないかという話がありまして、やはりこの辺はより踏み込んでしっかり取り組んでいくべきことだなと感じましたので、またよろしくお願ひしたいと思います。

大津委員長 ありがとうございました。

では、以上で2つの部会の報告と意見交換を終わりたいと思いますが、実は、予定していた時間がたっぷり余っておるんです。ですから、部会を超えて意見交換とか、あるいは提言とか助言とか、忌憚のないところでしばらく時間をとりたいと思います。皆さん、いかがですか。

本多委員 岩崎委員にちょっとお願ひとか御検討いただきたいのは、私のところもそうですけれども、大学のすぐそばの町会には学生さんが住んでいるアパートがいっぱいあるんです。私のところだけだったらほかの町会さんには申しわけないんですけども、学生さんというのは町会から浮いてしまっているんです。例えば、私のところなんかは、町会に住んでいる世帯の家族構成とかを全部出していただきまして、いざというときに、その家族を助けに行くのにどういう方が住んでいたのかわかるように年齢、家族構成まで全部出していただいているんです。そういうのも学生さんに、アパートについては何もやっていないんです。そうすると、そこに住んでいる人の名前も知らないし、男性か女性かも知らない。そういう浮いてしまったような感じになっているんです。ですから、大学のほうで、そういう学生さんに対して被害があったときに町会とどういうふうに関連するのかというあたりを御検討いただければ非常にありがたいなど。我々として、助けに行けるときには行きたいんですけども、どんな方がいるのかもわからないままに行けないというのがありますので、もし調査があったときには協力するようにしなさいよとか、いろいろな連携の仕方があるかと思うんですけども、どういう連携の仕方があるのかというのを大学の中で御検討いただければありがたいなと思います。

岩崎委員 今の本多委員からの要望で、もし具体的に、先ほど申し上げましたように、大学としては、どういうものが求められているのかとか、その中でどういうことができるのかを検討するたたき台になるようなものとして、これはできるできないは別として、地元からは、災害が起こったときに、例えばこういうことはお願いできないでしょうかという要望事項を幾つか上げていただくような形で、実際に、我々大学側でこれは学生とも当然話をしていかなければいけないと思いますけれども、災害が起こったときに、じゃ、この10項目のうち、ここはできるけれども、これはちょっとできないよねとか、できるかできないかを具体的に判断する材料のようなものをまずはいただいて、それをベースに検討していくということであれば、少なくとも検討はできると思うんです。なので、総括的に、例えば御検討いただけますかとこちら側に振られてもちょっと……。

本多委員 例えば個人情報保護法とかいって、アパートに住んでいる人の名前もわからないんです。出していただけないんです。町会から調査に行けば、ちゃんと名前、年齢、それから緊急連絡先とか電話番号、私たちは携帯番号も全部書いていただくように町会内ではお願いしているんです。情報は会長と民生委員しか持っていないんですけれども、そういう対策はしているんですけれども、まずはそういった情報を出していただきたい、出すのに協力していただきたいということです。

大津委員長 今、本多委員の御指摘も全体の中で提言として考えながら、次の展開にしていければと思いますので、よろしいでしょうか。

ほかに何かございますか。

安陪委員 今の学生さんの問題なんですけれども、うちの部会でもちょっとそういう話題が出ていたんです。それは学校さんをお願いするんじゃなくて、地域に学生さんがある一定数住んでいるマンションなりアパートがあったら、その地域の方は、昼間は若い方はお勤めに出ていたりしますが、学生さんはそこにいらっしゃる場合がある。そういうときに、町会とか御近所で学生さんの居住場所があるよというのを教えていただいて、万が一の災害のとき、地元若い方がいらっしゃらないので、逆にそういうところに、何か助けてくれる方法はない？ というような問題を投げかけてみようかという話も、まだ結論は出ていないんですけれども、ちょっと話が出たこともあるんです。たまたま今本多委員から、そういう学生さんということであったので、そういう学生さんがお住まいのところをターゲットにして、我々で協力していただくような手段は何かないものか、そういうことも考えているところなんです。だから、そういう場所があったら教えていただいて、よろしくお願いします。

大津委員長 吉田委員、防災組織等の立場で何かございましたら。

吉田委員 一番手っ取り早くできるのはやはり冷蔵庫に自分の避難する場所の身近なところを書いていただいて、自助、共助、公助とありますけれども、余り細かいことを書

いてもだめだし、回覧板も一過性で、見て、何かあったか、何を書いたかはすぐ通り過ぎてしまってわからないんです。だから、起きたらすぐ冷蔵庫か何か見られるような場所に、あなたの避難場所はここだと、それから3日間のこういうものだけは置いておきましょうとか、家族の連絡場所はここですと、そういう簡単なことで、常に目に見える、朝起きたら目に見えるようなところをやっておいたらいいのかなと思っています。

大津委員長 それでは、2つの部会に関する意見交換はとりあえずここで終わりたいと思いますが、よろしゅうございますか。——ありがとうございます。

(2) その他

・次回区民会議日程について

大津委員長 では、全体の議題のほうに戻りまして、次第の2 議事の(2) その他、次回区民会議日程についてでございますが、これは資料の6 ページ、資料5が全体の開催スケジュールになっております。ごらんのように、ちょうど中段あたりの全体会議の8月ごろのところに予定が組まれておりますが、日程はもちろん未定でございます。この日程を本日、皆さんの総意の中で決めたいと思います。8月の末から9月の第1週の中で、具体的な日にちで申し上げますと——事務局から何か話はございますか。

事務局 まず、簡単にスケジュール全体を説明させていただければと思います。今のところ、8月の終わりぐらいのところに第5回ということで置いてございまして、今、委員長からございましたとおり、日程の案がここで出てくればありがたいと考えてございます。また、その後、11月23日に区民会議のフォーラムを開催すると決めさせていただきまして、第6回をその前に実施をするのか、それとも後に実施をするのかという点についても御意見をいただければと考えてございます。前に実施する場合には区民会議のフォーラムに向けて最終確認ということになろうと思いますし、後に実施することになれば、そのフォーラムを受けて、区民の方々からいただいた御意見を踏まえて、最終報告に向けた最終調整ということになろうかと思っております。ちなみに、第3期の区民会議ではフォーラムを開催した後に開催いたしまして、フォーラムでいただいた御意見を踏まえて最終報告の調整を実施してございます。その点についてもあわせて御検討いただければと考えてございます。

大津委員長 では、漠然としていても切りがございまして、皆さん、お手元にカレンダーで具体的に御予定をお書きになっているものがございましたらお目通しの上でと思っております。

8月29日(木)並びに30日(金)、もしくは9月2日(月)から4日(水)の範囲の中での皆さんの御都合なり御意見を承りたいと思っております。

〔日程調整〕

大津委員長 では、とりあえず9月4日（水）を第5回の全体会議とさせていただきたい
と思います。事務局、よろしいですか。

事務局 そうしましたら、本日欠席の方にもお伺いいたしまして、最終的に確認をいたし
ましたらまた改めて皆様に御連絡をしたいと思います。

大津委員長 第2の案は8月30日（金）、9月2日（月）、9月3日（火）、最優先は9
月4日（水）ということをお願いしたいと思います。ちなみに、それから先の5日、
6日になりますと、私めがのっぴきならないスケジュールがはまっております。28日
になりますと、副委員長の2人が詰まっておりますので外させてもらいます。今の範
囲の中でお願いしたいと思います

先ほど事務局から提起がございました第6回の全体会議をフォーラムの前か後か、
どちらがよろしいかということについての意見交換をしたいと思いますが、御存念の
おありの方がいらっしゃいましたら御発言をお願いしたいと思いますが、いか
がでしょうか。

松本委員 私は後のほうがいいと思います。ただ、11月23日の後という12月という感じ
になると、ちょっと忙しい人が出てくるんじゃないかと思いますが、やっぱり後のほ
うがいいんじゃないかという気がします。

大津委員長 確かに、今松本委員おっしゃられたように、フォーラムで出てきた区民から
御意見、声を反映しながらというのがよろしいかなと思いますね。

辻野委員 ちなみに、従来はどうしていましたか。

事務局 第3期は後でした。

辻野委員 そういう形にしますか。

松本委員 ただ、最後の第7回が2月に予定されていますので、第6回の区民会議を区民
の皆さんの御意見を入れてやったとしても、最終案を出すまでに少し時間を調整しな
ければいけないところがあると思いますので、余り遅くならないほうがいいのではな
いかと思います。

事務局 最後の第7回でございますけれども、現在、2月に置いてございますが、最終報
告を3月までにやっていきたいという目標の中でございますので、ここを3月にとい
う可能性もございます。若干、行政のほうでの議会の日程等もございますけれども、
その合間を縫って3月に開催するということもありますので、ここは2月に限定せず
にお考えいただければと思います。

大津委員長 11月23日がフォーラム開催ですから、11月の月末か12月の初め。いかがでし
ょうか。

石橋副委員長 後と考えると11月23日から後ということですから、事務方のまとめとかで
1週間、10日間の時間でいいのかな。日数が少なくなっていくんですが、要は、そう

すると2週間、間をとるとしたら12月の9日、10日、11日に来ると思うんです。これを1月にしたら、多分、逆に新年会とかいろいろのことがあって、夜といえどもなかなか難しいし、11月23日にやって1月になったら、間延びしてみんな忘れてしまうということもあるし……。前か後かだけまず決めて、後だったら12月の今言ったような時期、10日前後になると思うんですが、そのことも含めて御意見いただければと思います。

大津委員長 いかがでしょうか。

辻野委員 去年の状態を振り返ってみると、昨年度、第3期もフォーラムの後に皆さんから意見等を伺って、そういう意見も反映させた会議にしたような記憶があるんですけども、副委員長、どうでしたか。そういう流れでしたよね。

石橋副委員長 第3期がどうのこうのということではなくて、第4期をどうするかということは今言っているんですから、慣例に従うことも——これは慣例でも何でもありません。だから、前にやるということはフォーラムに固まったものをかける。結局、フォーラムをどう位置づけるかです。区民の意見を聞きながら提言をまとめるという方向性をとったほうが私はいいと思いますから、後。前にやるとなるとスタンスが全然違ってくるのではないのでしょうか。

辻野委員 私も、特にそういう点から考えると、去年の実施期を踏まえるような形でも、後のほうがよろしいんじゃないかという結論です。

大津委員長 それでは、後という声が多いようですから、基本的にフォーラムの後に第6回を開催するというところで、日程的なところは、先ほど石橋副委員長がおっしゃっていただいたように事務局の整理等も含めると12月10日前後かなと思いますけれども、そこら辺で最大都合のいい日程を組んでいきたいと思いますので、御承知ください。

事務局、そういうことで進めたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。——ありがとうございました。

3 その他

・多摩市民館デー「多摩区子ども区民会議」について

大津委員長 それでは議事の3 その他、多摩市民館デー「多摩区子ども区民会議」について事務局から御説明、提案をお願いいたします。

事務局 区民会議の貴重なお時間を頂戴いたしまして、ありがとうございます。私、多摩区役所のまちづくり推進部生涯学習支援課の夏井と申します。よろしくお願ひいたします。

今日、お手元のほうに資料をお配り申し上げておりますが、多摩市民館の事業の一環としまして多摩市民館デーを8月25日に実施いたします。市民館は、市民、区民の皆様のご学習ですとかいろいろな活動、それから発表など場の提供ということでお部屋を

お貸ししているのと、学習の機会の提供というような形で事業を行っております。この市民館デーは学習の機会の提供という形で実施いたします。さまざまな学習をしていらっしゃる団体の皆さんがいらっしゃるんですが、その方々の学習を通して皆さんと交流を持っていただきたい。先ほどのコミュニティ部会のほうでいろいろ交流が必要だねなんていうお話があったと思うんですが、その中でも学びのフェアを使ってなんていうお話もいただいたところでございますが、市民館デーを通して学びの交流をしていただこうというふうに思っております。

その中の1つといたしまして、多摩区子ども区民会議を開催したいと考えております。先ほど新田委員から学生版の区民会議があってもいいんじゃないかというような御意見をいただきまして、私のほうで考えておりますのは、児童生徒、小学生の4年生から中学生を対象といたしまして、多摩区には、先ほど地域教育会議というお話もあったんですが、地域教育会議の中に子ども会議がありまして、環境の問題等でみんなでいろいろ活動しています。その子ども会議のメンバーを中心として区内の小中学生、全部で五、六十名を集めて区民会議を開催したいと思っております。コミュニティと自然災害というテーマを設定いたしまして、子どもたちの目線でコミュニティとは、自然災害とはということをお話し合ってもらおうと考えております。子どもが全員発言できるように七、八人のグループに分かれまして話し合いをして、全体会でそれぞれのグループの発表をするというような形式をとっていきたいと思っております。子どもたちは自由な発想で意見を述べてほしいので、その中には大人は入らないで、子どもたちだけでいろいろ意見を発表してもらおう。ただし、これはどうしても大人に聞いてみたいなんていう子どもたちからの意見があった場合は、大人の方に発言を求めるといったような形で進めていきたいと思っております。

川崎市は子ども権利条例がありまして、子どもの意見表明の場ということもありますし、子どもが自分は何ができるか、小学生だから、中学生だから何もできないんじゃないくて、自分は何ができるんだろうかということまで考えてもらえればよいなと思っております。

区民会議の委員の皆様方には、ぜひ傍聴という形でこの会に参加いただきまして、子どもの生の声を聞いていただければと思ひまして、お願いで上がりました。どうぞよろしくお願いいたします。

大津委員長 ありがとうございます。

今、夏井館長から趣旨の御説明、提案をいただきました。最後のページにつけていただいておりますように、8月25日、子どもたち、児童たちの夏休みの最後の予定をお組みになっていますので、我々、大人のほうの区民会議メンバーも、各委員、御都合のつく限り御参加。ただし、あくまでも傍聴者ですので、発言は禁じますということになりますので、お含みの上で御予定を組んでいただければと思ひます。

今の子ども区民会議への招請について、皆さん、何か御意見ございますか。——よろしいですか。では、招請を我々も限りなく受けて傍聴するという姿勢でいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

4 閉会挨拶

大津委員長 それでは、本日の会議の締めをしたいと思います。閉会の挨拶を兼ねて、講評的なことも含めて石橋副委員長、お願いいたします。

石橋副委員長 皆様、どうも御苦労さまでした。コミュニティ部会は「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」、自然災害部会は「いざというときに助け合える体制づくり」、仕組みづくりということを掲げて、これまで部会でそれぞれ御討議をお願いしてまいり、今日おそろいの中間報告的なものをいただきました。第5回の区民会議とその先の日程も今日決めさせていただきまして、いよいよ11月のフォーラムに向けてどのようにまとめていくか、まとめていくかという言い方は何かおかしいかもしれませんが、その中に、今日はたくさんの御意見をいただけたんじゃないかと思っております。ちょうど、もう少しというところがそれぞれおありになったんじゃないかなと思っておりますが、私のほうから、やはり紙に書いたものをいかに実行に移していくかという仕掛けも大切なんじゃないかと思っております。避難所のありようについて、4ページにも書いてありますように、避難所運営ゲームというような、ある意味では遊びの中から身につけるといような提言も必要かなと感じております。

これから皆様方それぞれのところでお忙しくなる時期でもあるし、暑さがさらに厳しくなっていくんじゃないかと思っておりますが、体調に気をつけて、第4期の区民会議提言に向けて邁進していきたいと思っております。御苦労さまでございました。

大津委員長 ありがとうございます。

それでは最後に、参与の中で吉沢議員がお見えですので、講評などをお願いしたいと思います。

吉沢参与 皆様こんばんは。市議会議員の吉沢でございます。今ずっと資料を拝見させていただいてまして、非常に興味深いことが幾つかあるなと思えました。

実は私も、今多摩区に一番欠けているのはカフェじゃないかと思ってまして、カフェがないなというのはすごく思って、この区役所の周辺にはあるんですけども、カフェはすごくコミュニティが生まれる場所じゃないかなと思っていて、この中にカフェの提言なんかもあって、区民会議でも提言していただいているんですけども、どうやったらそういうことが実際にできるのかということも含めて、また私どもも考えていきたいと思っています。

それからまた、災害に関しては、後で子どもたちの子ども区民会議をなさるということで、新田委員が先ほど学生も区民会議をとということをおっしゃっていたというふ

うに今聞いたんですけれども、私も以前から多世代の方が区民会議に参加していただきたいと思っていて、ぜひ学生の参加をとというのは議会でも取り上げたことがあったんです。今回、子どもたちが参加するということで、きっと子どもたちは素晴らしいアイデアがあると思いますので、成功させていただきたいということと、今、紙をどういうふう to 実現していくかということをおっしゃっていたんですけれども、子どもたちが提言したことを何か1つでも成功体験をさせてあげるような取り組みをぜひ実現していただきたいと思いますので、その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

今期の区民会議に私はなかなか参加できなくて、ようやく今日参加できて、大変失礼いたしました。とても大切な資料を私も拝読させていただいて、ぜひまた役立てていきたいと思ひます。本日は御苦勞さまでござひます。

大津委員長 ありがとうございます。

では、議事進行役の席をおろさせていただきます。事務局から補足とか何かござひましたらお願ひいたします。

事務局 特にござひません。よろしくお願ひします。

大津委員長 それでは、本日はこれで第4回の区民会議を終了したいと思ひます。お疲れさまでござひました。

午後7時49分閉会